

循環器疾患患者における軽度認知機能障害の有無によるペットボトルの開栓および洗濯バサミのつまみ動作に必要なピンチ力に関する研究

1. 研究の対象

- ・2020年2月1日から2026年3月31日の間に、虚血性心疾患（労作性狭心症、不安定狭心症、急性心筋梗塞）の治療目的で入院し、生存退院した病者さま。

2. 研究目的・方法

日本では、高齢化が進み、心疾患患者および認知症患者は増加の一途をたどっております。これらは社会的な問題に発展しています。これらの問題に対して、社会や臨床現場で対応が迫られておりますが、根本的な治療法や予防法は確立されておられません。これまで、私達は、心疾患患者の日常生活活動に着目し、軽度認知機能障害の合併の有無による日常生活活動の違いを調査しました。その結果、軽度認知機能障害合併者は、非合併患者と比べ、日常生活活動は低下していることが明らかとなりました。そのため、心疾患患者における軽度認知機能障害の合併は、日常生活活動に少なからず影響を及ぼす可能性が考えられました。また、私達は、心疾患患者のピンチ力に着目し、軽度認知機能障害合併者は、非合併者に比べ、ピンチ力が低下していることを明らかにしました。しかし、心疾患患者に対して、軽度認知機能障害の合併の有無によるペットボトルの開栓および洗濯バサミのつまみ動作に必要なピンチ力については不明です。そのため、本研究では‘軽度認知機能障害の合併は、心疾患患者のペットボトルの開栓および洗濯バサミのつまみ動作に必要なピンチ力に影響を及ぼす’という仮説を立て、それを立証するために調査を行うことを目的としております。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

- ①患者背景因子 : 年齢、性別、身長、体重、BMI、教育歴、職業、既往歴、現病歴、血液検査、心臓超音波検査、心肺運動負荷試験、投薬内容、心血管イベント、日常生活活動など
- ②身体機能 : 握力、ピンチ力、上肢機能評価
- ③認知機能 : 認知機能に関するアンケート結果
- ④ペットボトルの開栓動作・洗濯バサミのつまみ動作

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて病客さま、もしくは病客さまの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としますので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも病客さまに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

心臓病センター榊原病院

住所：岡山市北区中井町 2-5-1

電話：086-225-7111

FAX：086-225-3011

担当者：リハビリテーション室 石原広大

研究責任者：糖尿病内科 部長 清水一紀